

巻 頭 言

2014年1月25日、名古屋駅前の「ウインクあいち」におきまして第29回体液・代謝管理研究会年次学術集会をお世話させていただきました。

関係各位・諸先生方のご厚誼を賜り、歴史と伝統のある本会の会長を務めさせていただきましたことは大変光栄であり、深く御礼申し上げます。

本会の会則には、「主として侵襲下の生体に関する体液と代謝の問題を総合的に研究し、この方面からの生命維持に関する理論、ベッドサイドでのデータ表示、臨床的活用法などの進歩をはかり、関連領域の医学の発展に寄与することを目的とする」（会則第2条「目的」より）と、述べられています。

これは、私どもの教室「侵襲制御医学講座」の立場とも合致するものであります。よって、今回の学術集会のテーマは、研究会本来の目的に立ち返り、「侵襲制御を科学する」とさせていただきました。

今回は、一般演題を組み入れず、私自身が「聴いてみたい講演ベスト集」を思い描きながら、「侵襲制御を科学する」をテーマにプログラムを構成しました。

侵襲時に生体内で起こっている体液・代謝異常の病態とその管理について、名誉会員の平澤博之先生はじめ、各方面のそれぞれのトップランナーの先生方にご講演をお願いしたところ、ご多忙中にもかかわらず、各先生ともご快諾頂きまして、錚々たるメンバーによる非常に内容の濃いプログラムを組むことができました。また、研究会テーマと同じタイトルを冠したシンポジウムでは、侵襲と免疫、呼吸、腎臓、栄養管理の第一人者にそれぞれのご専門のお立場からご講演をいただき、フロアを交えた有機的なディスカッションが繰り広げられました。

お蔭様で全国から270名以上の方々にご参加いただき、開会から閉会まで終始満席状態となり、立ち見も出るほどの盛況でご迷惑もおかけしましたが、盛会裡に無事終えることができました。これも、ひとえにご講演をいただいた先生方はじめ、参加いただいた先生方、会員の皆様、飯島事務局長並びにご教室の皆様、関係各位の皆様の皆様のお蔭と心より感謝いたしております。

本号は、「日本を代表するトップランナーたちが繰り広げたハイレベルでアカデミックな一日」を再現したものです。体液・代謝を軸に侵襲学の世界を楽しんで頂ければと思います。

末筆とはなりましたが、ご講演をいただいた先生方には、大変ご多忙な中ご無理をお願いして玉稿を賜りました。

この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

第29回体液・代謝管理研究会年次学術集会

会長 西田 修

（藤田保健衛生大学医学部麻酔・侵襲制御医学講座）